



①ピエールダリ高校での交流会で披露する歌と踊りの練習
 ②パスカルさんのフランス語講座
 ③出発式（市役所本庁舎）
 ④ホストファミリーとの対面式（コンピエーニュ市議会議場）
 ⑤、⑥ホストファミリーとの交流

事前準備
 中学生たちは、12月に派遣が決まってから、説明会や研修会に参加し、着々と準備を進めてきました。
 研修では、郡山市在住のフランス人ノワロー・ジョン・パスカルさんを講師に迎え、2回にわたりフランス語を学びました。日本語が堪能なパスカルさんですが、講義中はほとんど日本語を話しません。初めて聞く生のフランス語は新鮮で、派遣生たちは目を丸くしながらも真剣に聞き入り、

難しい発音にも次第に慣れていきました。さらに、コンピエーニュ市にあるピエールダリ高校での交流会で披露する歌と踊りを自分たちで決め、一生懸命練習しました。
出発、いざフランスへ
 3月22日の早朝、いよいよ旅立ちのときを迎えました。期待と不安が入り混じる中、保護者や本市国際交流協会の役員に見送られ市役所を出発。成田空港で飛行機に乗り、フランスへと飛び立ちました。

約12時間半のフライトを終えパリの空港に到着、その後コンピエーニュ市に移動。ゴシック様式の市庁舎や芸術的な街並みを見て異国に来たことを実感し、新しい世界に期待が高まります。
 そして、いよいよお世話になるホストファミリーとの対面です。みんな緊張していましたが、そんな彼らの不安を吹き飛ばすかのように、ホストファミリーは優しい笑顔で迎えてくれました。

派遣生たちの感想文には、ホストファミリーの気遣いがこう綴られています。
 「戸惑いが多く、悩んでいたが、それは初日のわずかな時間だけだった。ホストファミリーはとても優しく、親切に接してくれた」。
 「携帯電話の翻訳機能やジェスチャーなどを使って、必死に会話してくれようとしたので、とても感動した」。
 2日目は、それぞれのファミリーと思い思いの休日を過ごしました。



エッフェル塔の前で



歴史の重みを感じるコンピエーニュ市庁舎

コンピエーニュ市は、パリから約80kmに位置するピカルディ州オワーズ県の副県庁所在地で、人口は約45,000人の中規模都市です。交通の便に恵まれ、化粧品、食品、自動車部品工場などが数多くあります。市内にあるコンピエーニュ工科大学はフランス国内でもレベルの高い大学として知られていて、日本からの留学生もいます。同市の歴史は古く、周辺を狩猟に適した森に囲まれていたため、しばしば王や皇帝が居城を構えていました（現存するコンピエーニュ宮殿は、ナポレオン3世の治世に皇帝の秋の宮殿として利用されていました）。また、イギリスとの百年戦争中、劣勢のフランスを勝利に導いた「ジャンヌ・ダルク」が捕らえられた地としても有名です。

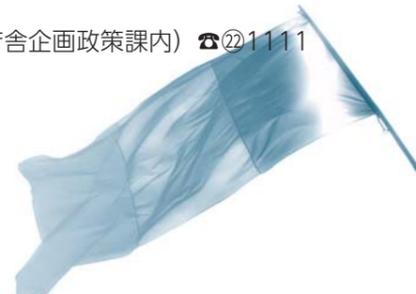
特集／中学生国際交流事業

7日間の

フランス見聞記

平成元年から行っている「中学生国際交流事業」には、これまでに471人の生徒が参加し、異国の文化を体験しています。平成25年度は、3月22日から28日までの7日間、派遣生（中学2年生）20人が本市の姉妹都市であるフランス・コンピエーニュ市やパリ市を訪問し、現地で貴重な体験をしました。
 今月号では、体験の内容や感想の一部を紹介します。

市国際交流協会事務局（本庁舎企画政策課内） ☎@1111 内2323



5月15日の帰国報告会では、派遣生たちがフランスで「何を感じ、何を思ったか」をひとりずつ発表しました。その内容を抜粋して紹介します。

- 尾股昂哉**さん（五箇中）
もう一度コンピエーニュを訪れて、ホストファミリーに感謝の気持ちを伝えたい。
- 工藤 陸**さん（表郷中）
今回学んだことをたくさんの人に広め、いずれは世界で活躍できるようになりたい。
- 工藤莉咲**さん（大信中）
今回の事業がきっかけでフランスの魅力を感じることができ、他国への興味がより一層深まった。
- 國分一樹**さん（五箇中）
初対面の人にも自分から話しかけられるような明るくフレンドリーな人になりたい。
- 小林友里恵**さん（白二中）
人に感謝することを学んだ。今回の体験で得た自信や発見を糧にして、夢を叶えたい。
- 佐藤朱里**さん（白二中）
現地で感じ、学んだことをいろいろな人に教えた。いつかフランスと日本をつなぐ人になりたい。
- 佐藤光樹**さん（白二中）
みんな陽気で常に笑っていた。言葉や住む国が違っても通じ合い、心の形は一緒なのだと感じた。
- 佐藤輝弥**さん（中央中）
相手が何を伝えたいのかを把握し、しっかりと自分の伝えたいことを伝えられるようになりたい。
- 鈴木沙英**さん（白二中）
異文化に触れることで、他国の良さだけでなく自国の良さも再認識することができた。
- 鈴木芽佳**さん（中央中）
言葉が通じなくても仲良くなれることが分かり、積極的に行動すれば相手に気持ちが伝わると思った。

川崎英順さん（平成25年度派遣団団長）
この旅は私たちの交流にとってきっかけに過ぎない。未永くこの良い交流を続け、発展させていきたい。

- 鈴木 萌**さん（中央中）
国や文化が違って大切なのは人と人のつながりだと思った。相手を思いやる気持ちは変わらないと感じた。
- 高橋 梨**さん（表郷中）
とても感動的で心に残る良い思い出になった。ホストファミリーのご飯はおいしかった。
- 田辺陸斗**さん（白二中）
会話することはとても難しかったが、心で通じるものがあり、何とかなるもんだと思った。
- 芳賀朱莉**さん（中央中）
仲間やピエールダリ高校の人たちと笑いあえたとき、何事にも笑顔は生まれると感じられた7日間だった。
- 藤田菜々**さん（白二中）
不安だらけだったが、ホストファミリーがとても優しくだったので、本当に良い経験ができたと思う。
- 遠見侑希**さん（中央中）
白河もコンピエーニュのように、伝統を受け継ぎながら新しいものも吸収できるようになれば良いと感じた。
- 星 大夢**さん（表郷中）
ホストマザーに「あなたは私たちの家族だからまたいつでもおいで」と言われたときはとてもうれしかった。
- 満山さくら**さん（大信中）
ホストファミリーは優しく笑顔で迎えてくれたので嬉しかった。とても楽しい思い出ができた。
- 宮尾京佳**さん（中央中）
感動や驚きの連続だった。現地の人たちの優しさや、文化などをたくさん感じるすることができた。
- 鷲尾晃輝**さん（中央中）
ホストファミリーとは今でもメールのやり取りをしている。機会があれば、今すぐにも会いに行きたい。

Information

フランス語講座

Français

市国際交流協会では、中学生国際交流事業で講師を務めていただいたフランス人講師によるフランス語講座を開催します。どなたでも参加できますので、お気軽にお申し込みください。

- **日時** 7月23日・30日、8月27日、9月3日・17日、10月1日 水曜日 計6回/午後7時～9時
- **会場** 本庁舎正庁（5階）
※7月23日は本庁舎地下会議室
- **講師** ノワロー・ジョン＝パスカル氏
- **内容** 基礎的なフランス語会話
- **定員** 1回40人 ※先着順
- **受講料** 1回あたり500円（7月18日 締めまでに6回分を一括でお支払いいただく場合は2,000円）
※市国際交流協会会員は無料
電話またはEメールで、各開催日の2日前までにお申し込みください（平日の午前9時から午後5時まで）。
- **申し込み・問い合わせ先** 本庁舎企画政策課②1111 内2323 / Eメールkokusai-koryu@city.shirakawa.fukushima.jp



ノワロー・ジョン＝パスカル先生

ピエールダリ高校での交流

3日目は、以前から親交のある、ピエールダリ高校の交流会に参加しました。折り紙や独楽回しなど、日本の昔ながらの遊びで交流を深めた後、高校生たちが弾き語りやバンドで日本の歌を歌い歓迎してくれました。派遣生たちはお礼として、研修のときから一生懸命練習してきた歌や踊りを披露し、最後はみんなで大合唱しました。また、川崎英順団長が、本業の「お経」を



①交流会で歌と踊りを披露
②袈裟をまといお経を読む川崎団長
③悲しみをこらえホストファミリーと笑顔でお別れ
④ヴェルサイユ宮殿
⑤ミロのヴィーナス像（ルーブル美術館）
⑥帰国報告会（5月15日）

ホストファミリーとの別れ

4日目の朝、ホストファミリーとの別れのときが訪れました。フランス語で感謝の言葉を伝えようとするものの、

パリ、そして帰国

パリに向かう途中では、ゴッホゆかりの地オーヴェル・シュル・オワーズやヴェルサイユ宮殿を見学。パリでは、ルーブル美術館やノートルダム寺院、凱旋門、サクレクー

ほとんどの派遣生が「Mer ci」という単語しか出てきません。もどかしさと別れの悲しみを胸に、ホストファミリーに見送られながらコンピエーニュ市を後にしました。

「7日間」という短い期間でしたが、ほかでは得ることができない貴重な体験をし、かけがえのないたくさんのことを得たことでしょう。これらを将来どのように生かしていくのか。国際交流は始まったばかりです。

ル寺院などを見学し、数々の芸術や文化に触れました。フランスを離れ、3月28日の深夜に白河に到着。迎えてくれた保護者や協会役員に、無事、帰国を報告しました。